

# 手

菅田 忠志

工業立国日本があぶない！ と叫ばれはじめても  
うどれくらいの年月が過ぎただろうか。

大量生産、大量消費で手にした「高度成長」とい  
う名の収穫は、果たして人々を幸せにしてくれたの  
だろうか。

私にはどう見ても「根無し草のようなしあわせ」  
のようにしか見えてこない。

産業界は、少しでも安く作ることを競い合う手段  
として国外生産を選んだ。

このことは、技術や技能の流出を加速させ、その  
結果、国内の技術・技能の伝承が途絶え、空洞化の  
拡大が今大きな問題となって工業立国日本の土台を  
揺るがし、産業界に大きな課題となってつけが回っ  
てきている。

また、技術・技能の伝承が途絶えようとしている

背景には、国外生産の他に「先端技術優先・基幹技  
術偏重」の人員配置から、結果として「ものづくり」  
にたずさわる人員確保が手薄となり、それらのノウ  
ハウが継承されずに来ていることも見逃せない。

昔から、日本人は「勤勉さに手先の器用さを合わ  
せ持った素晴らしい国民」であったはずだが、あま  
りにも急いで「豊かさや自先の収穫」を追い求めず  
ぎ、「真のしあわせ」を見落としてしまっているの  
はないだろうか。

すばらしい日本人の技術・技能は、国家の大きな  
財産であるはずだ。しかし、今高齢化と共に、基幹  
技術・技能の偏重から確実に実力を後退させており、  
技術・技能の空洞化とあいまって深刻な問題になっ  
てきている。

いくら高度な設備でも、人の手や経験を添えてこ  
そ、設備も機械もさらに進化してゆくものである。  
人の手のぬくもりから生まれた製品や制度こそが、  
人の心を豊かにしてくれるのではないだろうか。

「しあわせ」の中味を履き違えないよう、みんな  
で今一度日本の現状を見つめなおし、軌道修正して  
ゆかなければ、日本の将来はゆがんだ方向へ向かう  
かもしれない。

自分たち日本人が、日本人のこころを見失わない  
限り、日本の将来も明るいことを信じてゆきたい。